

学籍番号

氏名

3 作業療法士に関する技能・思考過程に関する評価 ※当てはまるセルを「○」で囲んでください。

| 項目 | | 基準 | 十分 | 概ね十分 | ボーダーライン | 基準未到達 |
|----|-------------------|----|---|--|--|---|
| 1 | 情報収集 | | 根拠のある必要な情報を的確に収集できる。 | 概ね妥当な情報収集ができるが、不足点や意義が薄い情報も混在している。 | 情報収集に合理性が乏しいため不足点や無駄が多い。 | 指導しても、必要な情報を収集できない。行っていない。 |
| 2 | 評価計画の立案 | | 根拠のある検査項目を適切に列挙でき、具体的な評価計画を立案できる。 | 一部の検査項目に不足点や具体性に欠けるものがあるが、評価計画を立案できる。 | 検査項目が不足し、矛盾点も多い。評価計画も具体性に欠ける。 | 検査項目を列挙できず、評価計画が立案できない。 |
| 3 | 対象者・家族へのオリエンテーション | | 対象者の理解度を配慮したわかりやすい説明ができ、対象者へ不安を与えない。 | 妥当な説明を行うことができ、対象者も理解できるが、専門用語が入るなど、配慮に欠ける面もある。 | 説明が一面的で不十分のため、対象者の理解は乏しい。後々SVからのフォローが必要。 | 適切な説明が行えず、対象者へ伝わらない。理解を得ることもできない。 |
| 4 | 安全・リスク管理 | | 安全への配慮が細部まで可能であり、リスクを予測した行動ができる。 | 安全・リスクへの意識はあるが、配慮に欠ける面もある。 | 安全・リスクへの配慮が不十分で、頻回に注意喚起が必要。 | 安全・リスクへの配慮ができず、行動に危険を伴う。インシデント事例に繋がる。 |
| 5 | 評価・検査の実施 | | 正確な方法で評価・検査が実施でき、必要最低限の時間で可能である。 | 一部手技が未熟で手間取ることもあるが、指導で改善する。やや時間を要する。 | 全般に手技が未熟であり、誤りも多い。非効率で通常の倍以上の時間を要す。実施までには頻回な指導が必要。 | 手技を会得できておらず、評価・検査が実施できない。 |
| 6 | ICF分類 | | 全体像を反映したICF分類ができ、構成要素の関連も整理できる。 | 全体像をすべて反映できず、一部妥当性に欠けるが概ね妥当なICF分類ができる。 | 全体像の把握が不十分で、ICF構成要素の繋がりが成立していない。 | 全体像を把握できず、ICFの理解も乏しい。適切に分類できない。 |
| 7 | 目標の設定 | | 対象者の全体像を反映した目標を設定でき、STGとLTGに妥当な論理構成がある。 | 目標の一部が妥当性に欠け、STGとLTGの関連も不十分であるが概ね妥当な目標設定ができる。 | 目標の多くが妥当性に欠け、STGとLTGの関連が希薄で偏りがある。 | 指導しても、全体像を反映した妥当な目標を設定できない。STGとLTGの関連も構築できない。 |
| 8 | プログラムの立案 | | 目標に対応したプログラムであり、対象者の能力や変化を見据えた妥当なプログラムを立案できる。 | 一部、目標設定や対象者の能力と相違があるが、概ね妥当なプログラムを立案できる。 | 多くが目標と相違があり、対象者の能力とは均衡がとれない。その場限りのプログラムになっている。 | 目標設定と合致せず一貫性がない。対象者の能力も勘案できず矛盾が多い。意図が曖昧で不適切。 |
| 9 | プログラムの実施 | | 正確な方法でプログラムが実施でき、必要最低限の時間で可能である。 | 一部手技が未熟で手間取ることもあるが、指導で改善する。やや時間を要する。 | 全般に手技が未熟であり、誤りも多い。非効率で通常の倍以上の時間を要す。実施までには頻回な指導が必要。 | 手技を会得できておらず、模倣もできない。 |
| 10 | 論理的な考察 | | 症例に即した論理的な考察を行うことができ、一貫性を持って整理されている。 | 不足点や不十分さはあがあるが、症例に即した考察を行うことができる。 | 自らの考えも少なく、限定的。論理的な考察はできず単純な思考が目立つ。 | 疑問を持つことが困難で、考察を展開できない。感想レベル。 |
| 11 | 記録と報告 | | 専門用語を用いた記録を適切に行うことができ、報告も正確である。 | 多少の表現の修正が必要であるが記録はできる。報告も概ね問題なく行うことができる。 | 専門用語を用いることが少なく、表現もわかりにくい。報告も誤りが多く正確性に欠く。 | 記録は全体に書き直しが必要なレベルで、報告もできない。 |